

令和元年度 第1回長浜市総合教育会議 議事録

I 日 時 令和元年7月11日（木曜日）13時30分～15時20分

II 場 所 長浜市役所 本庁舎3階 特別会議室

III 出席者

【構 成 員】 藤井勇治市長、板山英信教育長、
井関真弓教育委員、西橋義仁教育委員、廣田光前教育委員、
美濃部俊裕教育委員、宮本麻里教育委員

【事 務 局】 米田教育部長、横尾教育委員会事務局次長、
岩田教育委員会事務局次長、土田教育改革推進室長、
伊藤教育指導課長、大田すこやか教育推進課長、
今井教育総務課長代理、浦山すこやか教育推進課副参事
古田総合政策部長、横尾総合政策課長、柴田総合政策課長代理
ほか担当職員（3名）

【議事進行】 古田総合政策部長

【傍 聴 者】 無し

【報道機関】 無し

IV 内 容

1 開 会

2 市長あいさつ

（要旨）

- ・ 第1回長浜市総合教育会議の開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。教育委員の皆様におかれましては、日頃から子どもたちの教育の充実と発展、そして健全育成のために、大変なご尽力を賜っておりますこと、心から感謝申し上げます。
- ・ さて、本日の会議のテーマは、「Society 5.0時代を生き抜く子どもたちへ 長浜市立学校の目指すべきICT教育のあり方について」であります。現代は人工知能やIoT等の技術が高度化し、あらゆる産業や社会生活に取り入れられ、社会のあり方そのものが大きく変わろうとしています。私たちの生活が便利で快適なものになることが期待されますが、これからの社会を生きていく子どもたちにどのような教育が必要か、文部科学省でも議論されていま

す。

来年度、小学校から始まる新学習指導要領では、社会が急激に変化していく中でも、子どもたちが未来の創り手となるために必要な知識や力を確実に備えることの出来る学校教育の実現を求めています。

- ・本市では昨年度末に「第1次長浜市学校ICT環境整備計画」を策定し、「教育環境の整備」と「教員の指導力向上」を柱に取り組みを始めました。現状の整備状況や指導力のレベルは高いものではありませんが、本市としても出来ることから取り組み、学校教育の現場に変革をもたらしていかなければならないと考えています。
- ・本日はこれから求められますICTを活用した授業を委員の皆様実際に体験していただく中で、これから生き抜く子どもたちに必要なICT教育のあり方について、意見交換をしたいと思えます。
- ・教育委員の皆様と行政が今後の長浜市の教育のあり方について活発な意見交換を行い、子どもたちを育む環境について、より良い方向性を見出すことができることを心から期待してご挨拶とさせていただきます。本日は、よろしくお願いいたします。

3 意見交換

議事

「Society 5.0 時代を生き抜く子どもたちへ

ー 長浜市立学校の目指すべきICT教育のあり方について ー」

(1) 行政説明

Society 5.0の社会像と求められる人材像、学びの在り方、Society 5.0に向けた学校教育、長浜市立学校がめざすICT教育、最近の国の動きの現状について説明。

(2) 授業体験

タブレットや大型モニターを活用した授業のデモンストレーションを実施し、長浜市立学校でめざす授業を体験。

(3) 意見交換

〈意見：教育委員〉

Society 5.0という言葉は初めて目にしました。イメージがわかりませんでしたのでどういふものか調べてみますと、「経済発展と社会的課題の解決を両立する」という言葉で集約されています。そういった社会で生きていく子どもたちに、今、どのような力を付けていけばいいかといったところが出てくるのではないかと思います。

まず最初に質問させて欲しいのですが、本市では3月に第1次長浜市学校ICT整備計画が策定され、2019年度に本市では大型掲示装置を小学校5、6年全学級、中学校2校の全学級に配置するとされましたが、現在の整備状況はどのようなものでしょうか。

先ほどの説明では本市のICT教育の整備状況が全国平均を下回っているとありましたが、先日、とある校長先生と話をしましたところ、ICT教育を進めている地域から本市へ転入してくる先生はかなり長けているが、本市ですっと仕事していた教員はあまりにも億劫がっている。その辺りについてどう資質を向上していくかが難しいと仰っておられました。

次に、全国的にICT教育が普及してきたようですが、メリットとデメリットがあることが明らかになってきました。

今日、ICT教育を体験させていただいて、子どもたちにとってはわくわく感が出てくるかと思いますが、デメリットを指摘されている部分もあります。

去年の8月に開催された教育研究発表大会でアクティブラーニングの話を聞かせていただきました。アクティブラーニングを取り組んできた理由は、日本人の子どもたちは考える力が劣っているため、アクティブラーニングが有効であるという話でありました。

極端な言い方をしますとICT教育はこれとは真逆のものであり、考えるまでに簡単に答えが出てしまい、子どもたちの「自分の頭で考える力」が損なわれるのではないかと、また、活字離れが進むなど、いろんなデメリットが指摘されています。

今後、本市において現場で実際に3年間、機器を導入してICT教育を進めていきますが、良い面は良い面できちんと把握し、損なわれていく部分がありはしないか、客観的に見ながら慎重に進める必要があるのではないかと感じています。

現場の先生方にはアクティブラーニングが浸透してきていますが、まったく違う方向のICT教育を進めていくに従って先生方の頭の中が混乱するのではないかと、現場の様子を見ながら、慎重に進めていくべきではないかと思えます。

〈回答：事務局（教育指導課）〉

1点目の現在の整備状況につきましては、市内の小中学校、義務教育学校の各校にこれまでもパソコン教室があり、児童生徒数に応じてデスクトップ型パソコンを最大40台導入し、授業等に活用しています。

昨年度からデスクトップ型パソコンの更新に併せて、児童生徒用のタブレット型パソコンを8台から16台、数に限りがありますが、順次各学校に導入しており、昨年度は9校に配備しました。

今年度もパソコン教室のデスクトップ型パソコンの更新対象校につきましては、児童生徒数に応じて各学校に配備する予定です。それ以外の大型提示装置やデジタル教科書につきましては、各学校独自に整備・導入しているところもありますが、市内統一しての整備につきましては今年度から第1次長浜市学校ICT環境整備計画に則って順次、

導入していきます。

2点目の市外と市内の教員における指導力の差につきましてはご指摘のとおりと考えていますので、事務局としては教職員研修が非常に重要と考えており、研修内容の充実に努めていきたいと思っております。

3点目のICT教育のデメリットにつきましては、たしかに検索をすれば必要な回答が簡単に手に入るといった教育の面というデメリットのところがあると思いますが、あくまで学校教育でのICTの活用につきましては、答えを導き出すための便利な道具というよりも、今ほど体験していただいた授業のように、それぞれの意見の共有や他者と協働して一つのプレゼンテーションをまとめていくといったような学習の中で、一つの道具として使うことを改めて強調し、現場の教職員にもそういった活用方法を発信していきたいと考えています。

ただし、ICT教育にはデメリットがあるということも認識して進めていかなければならないと考えています。

〈意見：教育委員〉

私もSociety 5.0という言葉の意味がわからなかったのでインターネットで調べましたが、狩猟、農耕、工業、情報という時代があって、今、新たにその5つ目の時代が来ています。

今までもパソコンや色々な機器が入ってきた時、子ども自身もそうですが、先生や一般の社会の人でも馴染めない人もいて、乗り遅れていくことがあります。これからの時代は、嫌でもそれらの操作を自由に出来る子どもたち、また、そういう社会で新しいものを生み出す子どもたちを育てるためには（ICTを）避けては通れません。先ほどの説明にもあったように（ICTを活用した教育には）マイナス点もありますが、事務局の説明にもあったように一つ的手段として（ICTに）早く慣れるような子どもたちを生み出さなければなりません。

もちろん、教育する先生側もそれらに慣れなければなりませんし、機器を揃えた後、教育の現場の者の課題であると改めて感じました。

ICT教育の課題ということで言いますと、人同士の会話が減ることや、一時よく言われた体験学習、操作、本物に触れることが（子どもの教育に）大事と言われるのですが、いわゆる仮想の状況と現実というものがアンバランスになる可能性があるのだろうなと感じました。

長浜市の教育のリーダーである教育委員会には、その辺りを先生方自身がきちんとマイナス、プラスを自覚して、（ICTを活用した教育に）慣れながら、しかし、今まで間違いのないと考えてきた大事なところを失わないようにしてやっていくことで、バランスの良い教育が進むのだろうなとおぼろげながら、素人ながら考えた次第です。

〈意見：教育委員〉

2015年に実施されたPISAの学力調査（OECD生徒の学習到達度調査）の結

果が発表されました。日本の教育水準は世界に劣らないくらいのトップクラスですが、それはどちらかという知識とかであって、いろんな情報を組み合わせて考えるところが弱いと書かれていました。

子どもたちがもっと考えて、自分の言葉で発表して、コミュニケーションを取る能力が非常に大事であると感じながら読んでいましたが、子どもたちが、自分は出来る、自己肯定感を持っているということは、やはり今まで自分で出来た、こんな風に発表できた、という経験がすごく影響してくると思います。自己肯定感なくして教育改革は無いと私は思っています。子どもたちの自己肯定感が全国学力調査やいろんな面でも低いということではありますが、そういうところをどうやって身に着けていくといいのかということ、私はICT教育が入ってきたことはそういったところを補うという点でとても良いかなと思いました。

今日は朝の5時半頃、テレビをつけて家事をしていたところ、野球部で丸刈りを止めたというニュースがありました。丸刈りを止めたなら子どもたちはすごく喜ぶますが、自分が自由を手に入れたと同時に、逆に責任があることを実感し、子どもたちはいろいろ考えるようになります。自分たちでいろいろ調べ、仲間たちと相談しあって、練習メニューとかを考えながらやっていく。そしてそれが次に派生して行って、多少の約束事があったかもしれませんが、学習態度や授業に臨む態度にまで変化が出てきたというものでした。やはりそういう風に野球をやっているのは、「やらされていた」ということから「自分からやる」に変わり、子どもたちは楽しいと言っていました。

実は、私は同じようなことを長浜市で見ました。余呉小中学校の小学校の子どもたちがプログラミング学習の中で「きらきら回る球体をこの線のところで止まるようにしましょう」と先生が指示されるのですが、難しくそれを上手く止められる子どもはいませんでした。じゃあどうしたらいいのだろうかと一生懸命、試行錯誤しながら、友達に教えてもらいながら、論理的に考えながら出来るようになりました。このように自分で出来たという肯定感を得られるような授業スタイルもこれから大事なのかなということを感じました。

また、6月23日(日)の中日新聞でグローバル・ティーチャー賞の記事を読んでいたときに、今年、世界150か国から3万件以上の応募があった中で、京都の立命館小学校の先生がベスト10に入ったことを知りました。

その先生はブロックで仮想の家を作るというゲームソフト「マイクラフト」を使った授業をされるのですが、ただ「自分で好きな家を作りましょう」というものでは授業にならず、色んな思考が出来ません。

そこで何を題材にしたかということ、まず、社会科で京都の神社仏閣や地理について子どもたちに自分の足で歩いて、資料を調べて勉強をさせました。次に英語の授業で活用しようと、京都に魅力があるから外国の人が来るのだから、英語で外国の方にインタビューをしながら神社仏閣の魅力について勉強させました。

それで、京都の街の素晴らしさ、あるいは理想の家を世界、海外へ発信しようという授業がベスト10に入りました。

先生方は大変かもしれませんが、このように教科を越えた取組みが必要ではないでしょうか。たしかに、今ほど体験したような電子黒板の中では、ボタンをピッと押せば画像が出て、これだったら今まで先生方が培ってこられた「らしさ」や独自性、創意工夫が無くなるかもしれませんが、この立命館小学校の先生のように色んな授業に派生する授業もあってもいいかなと思います。

授業の準備という面では先生方は今まで大変でしたが、使いこなすことは大変かもしれませんが、このようなICTを活用した教育があるからこそ、一旦習得すれば子どもたちに先生の創意工夫も出来て、教材準備の時間短縮できるのではないかと感じました。

そしてやはり、読書離れです。教育委員会が進めてきた長浜市内の学校図書館はすごく充実しており、文字として先哲に学ぶではありませんが、やはり文字を読むことと併せてコンピューターを学習していくことも大事なかなと思います。

AIが人間を越えるのではないかとされていますが、そうなるかもしれないし、そうならないかもしれないけども、やはり人間性、人間らしさ、創意工夫して論理的に考えていける子どもたちを長浜で育てていけたらと思います。以上です。

〈意見：教育委員〉

一応、私はこの授業について賛成します。ただし、あくまでツールとしてであって、最終の目的ではありません。

例えば先ほどの動物の授業では、動物を怒らせてびっくりしませんでしたか。しかし（この授業では）はっきり言って動物の心、ぬくもりはわかりません。

例えば天道虫を例にします。なんで天道虫という名前がついているのかというと、この虫の特徴は、（必ず枝などの先端に）上がって行って最終的に飛び立ちます。私は天道虫を見つけたら1時間ほど遊びます。天道虫が歩いて上がってきて飛ぶシーンを写真機で狙います。他にも、鳥を見て「これはどういう鳥だろうか」ではなく、ずっと近づいて観ることで鳥の特性までわかります。

こういった授業では他の先生が仰るように、例えば（活字離れで）変換しないと漢字が書けない子どもが増えるでしょう。ここでの目的は、あくまで人間の知識が色々と（ICTの機器を）利用して増えることです。

でも最終的に現場が大事であると思います。物を観て、触って感じることです。私はこの授業には賛成します。かなりいい授業です。

〈意見：教育委員〉

最近、自分の子どもが、もちろん本も読みますが、テレビを観たり、もうちょっと年上の子になればユーチューブとかを早い段階で観るようになりました。音や声、アニメはすごく頭に残るので、子どもたちと話していても、「あのアニメのあそこが」という話がよく出ます。頭に記憶されるんだなと思います。他の方も仰ってるように文字を読んで活字からイメージできるような学習を、今もしてくださっていると思いますが、より強くやって行って欲しいと思います。

今日、この授業をやってすごく楽しくて、子どもたちも楽しんでやるのではと思いました。でも、そこまでの先生の準備であるとか、若い人でもスマホとかタブレットなどが苦手な方が多いと感じるので、使う側として慣れるまでにすごく時間がかかるのではないかと、また、研修に力を入れないといけないなと思います。

余呉小中学校で2年生の参観の時だったと思います。タブレットを使って町の探検をしてきたものをグループごとに発表する内容でした。一つの手段としてICTの機器を使い、簡単な写真を繋げていろんなアニメーションをその中(タブレット)に作って発表するものでしたが、とても2年生に見えないと思いましたし、こんなことが出来るんだと思いました。資料にも書いてありましたが、これから10年、20年後にどんどん職業を機械に取られていったときにプレゼン能力をすごく大切に感じます。モノを使ったプレゼンの機会があると嬉しいなと思いました。

最後に、二次元バーコードは教科書についているのでなかなか難しいと思いますが、子どもたちでもおもちゃでも雑誌でも商品を買ったら二次元バーコードを読み取ることが日常的にあります。例えば算数の足し算引き算でも昔自分が習ったやり方と違うことがあるので、子どもたち用だけではなく、親用の二次元バーコードがあるとすごく助かります。教えようと思っても、今はこういう授業の仕方、教え方なんだよということが教科書じゃなくても、なにか二次元バーコードを通じて知ることができたらちょっと楽チンかもと思いました。

7 閉会

教育長あいさつ

(要旨)

本日、デモをしていただいた皆様、本当にありがとうございました。私も含めて教育委員一同から改めてお礼を申し上げます。

教育委員会の資料にもありましたが、実は私も数年前まではICT教育に関して否定的でした。教育の世界は、教育現場は、という思いが大変強くありましたし、古い人間でしたが、教育長に就任してから色んなところで勉強し、実践している学校の発表の場に行く機会がありました。

そして今年6月に市内の小中学校の学校訪問を終えて、全授業、全クラスを短時間でありましたが観させていただきました。

そこで従来の一斉指導という、30人、20人を一定の教室に入れて一人の先生がチヨークと教科書で行う授業、これが大変色あせて見えました。恐らくこの中には退屈だなと思っている子どももいるだろう。また、先生の言っていることを全然理解できない子どももいるだろう。しかし、先生は苦勞もありますが、それを一つの集団の中でやっています。

これからの時代は、もっとそういうことに対して機器を活用することによって、子どもたちの状態に応じた、個に即した教育が展開されていく可能性を非常に感じています。

既にどんどん取り組みを始めている先生もいますし、学校もあります。何もかも取り

入れればいいというものではないですし、現場の先生方や子どもの状況に応じて変えていくべきではと思っています。

教育委員会としましては、導入計画も策定して現在展開中ですが、一つ最後に皆様にお話したいのは、学校という教育の場所でなかなか授業を受けたり学習したりすることが難しい子どもさん、例えば長浜病院で入院中であるとか、色々な自分の課題があつてなかなか学校に行くにはちょっと敷居が高い、そういう子どもたちに対してもっとこの機器で多様な学びの場と学びのスタイルを提供できるなど考えているところでございます。

また皆様方からご検討を頂戴しまして、長浜市の中で色々な状況で生活している子どもたちのために教育委員会も取り組んでいきたいと思っているところでございます。

本日は誠にありがとうございました。

15時20分 閉会